



名古屋大学 予防早期医療創成センター 第9回ワークショップ

<https://www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/conference20200131/>



2020年1月31日(金) 10:30~18:15
名古屋大学 東山キャンパス アジア法交流館

地下鉄名城線名古屋大学駅 1番出口より徒歩3分

申し込み方法

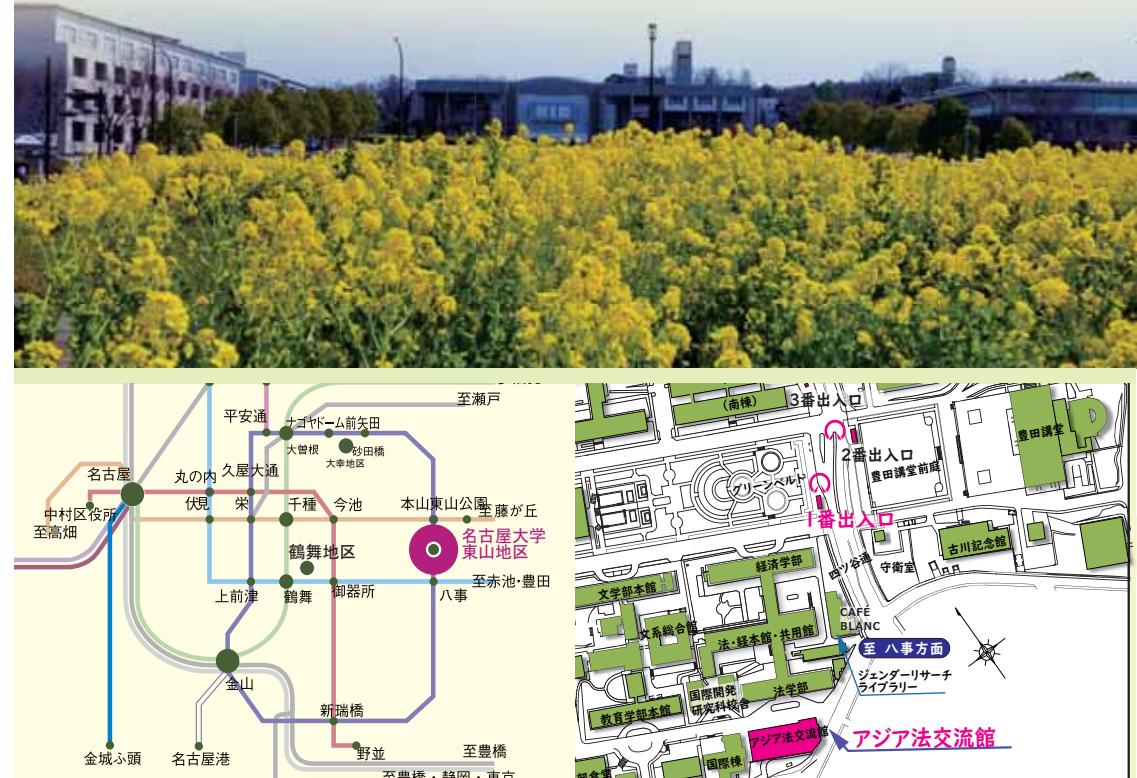


QRコードまたは、URL www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/entry/に
アクセスし、下記必要事項を選択記入の上ご登録下さい。

- 1)ご所属
- 2)氏名
- 3)連絡先
- 4)昼食要否（軽食実費500円、事前申し込みのみ）
- 5)意見交換会（会費制3,000円）の参加希望有無

問い合わせ先

名古屋大学 予防早期医療創成センター
URL <http://www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/>
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学
ナショナルイノベーションコンプレックス (NIC) 5F
TEL・FAX:(052) 789 - 5499
E-mail:'PME事務室
kou-kyoten@adm.nagoya-u.ac.jp



主催 名古屋大学予防早期医療創成センター

※ 10:30～、18:10～は、第1会場(アジアコミュニティーフォーラム)にお集まりください

時間	第1会場 (アジアコミュニティーフォーラム)	
10:30～ 10:35	挨拶 門松健治 予防早期医療創成センター長 医学系研究科 教授	
10:35～ 11:25	【招待講演】 国民の健康づくりに向けたPHRの推進について 厚生労働省健康局健康課 課長補佐 機谷 真由(とちや まゆ) 氏	
11:25～ 12:00	ポスターセッションに関するショート・トーク	
昼食休憩 ※		
時間	会場:ホワイエ/セミナールームI	
13:00～ 13:55	ポスターセッション	
移動		
時間	第1会場 (アジアコミュニティーフォーラム)	第2会場 (カンファレンスルーム)
14:00～ 16:00	1-1 地域連携型実証プロジェクト(コホート等)	2-1 Society5.0時代の非侵襲センシング
16:05～ 18:05	1-2 日本の未来にむけた 健康・医療データのあり方とは	2-2 健やかな子供の未来を考える
18:10～ 18:15	挨拶 佐宗 章弘 名古屋大学副総長・学術研究・産学官連携推進本部長	
18:20～ 19:50	意見交換会 於:ホワイエ (どなたでもご参加頂けます)	

-1-

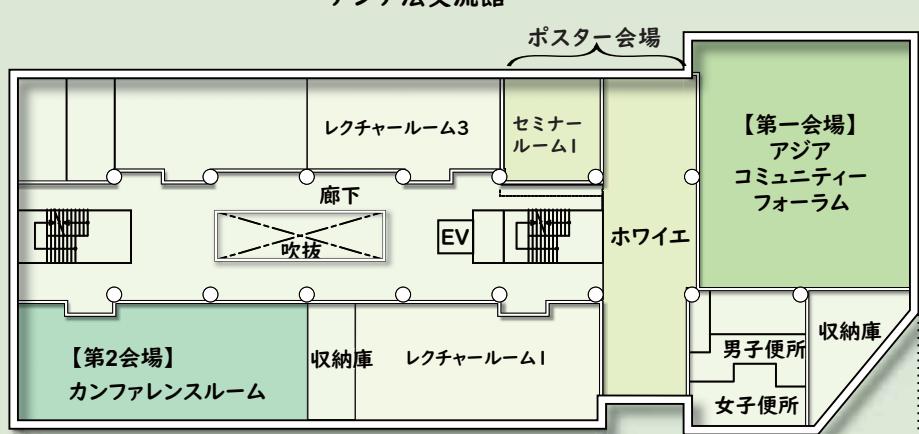
軽食*
意見交換会の
御案内

- 昼休憩時に軽食をご用意致します。ご利用下さい。
- 【費用】500円
事前申し込みのみ。〆切り1月28日(火)
- ワークショップ終了後、
ホワイエで意見交換会を行います。
皆様のご参加を心よりお待ちしています。
- 【時間】18:20～19:50 【会費】3,000円

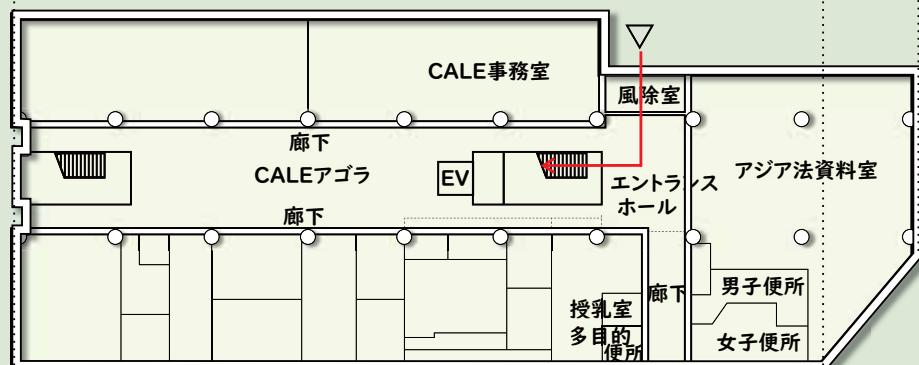


名古屋大学 アジア法交流館

2階



1階



-2-



座長 門松 健治
予防早期医療創成センター長
医学系研究科長 教授

10:35~11:15

国民の健康づくりに向けた PHRの推進について

厚生労働省 健康局 健康課
課長補佐
橡谷 真由氏
(とちや まゆ)

国民がメリットを実感できる健康・医療・介護分野のICTインフラを本格稼働させるため、厚生労働大臣を本部長とするデータヘルス改革推進本部が設置され、その中の仕組みの一つとして、個人の健康診断結果や服薬歴等の情報をpersonal health record(PHR)として活用する仕組みを推進することが求められている。

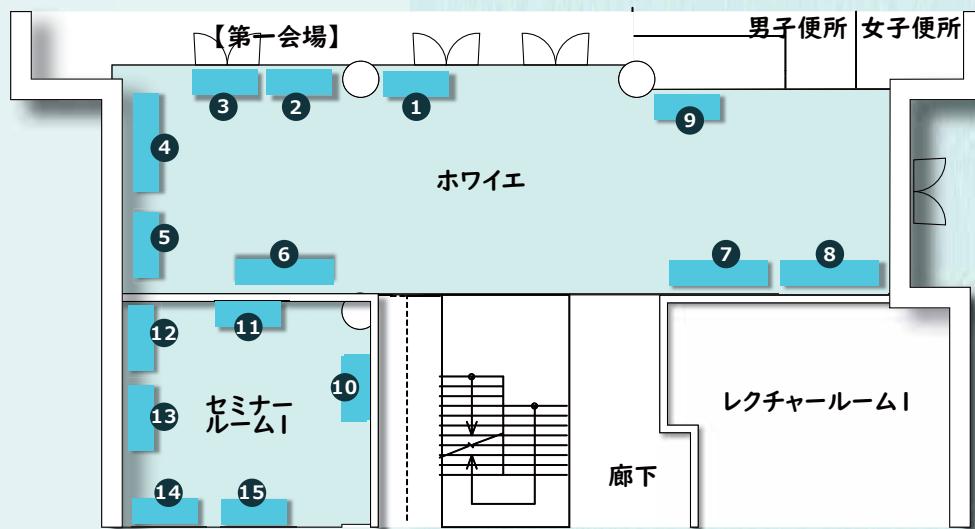
我が国では、2020年度から特定健診、乳幼児健診等、2021年度から薬剤情報について、マイナポータルにより提供することとされている。

また、今後更なる自身の健康に関する情報を、国民が電子データ等の形で効率的に利活用できる環境を整備するための検討を行っているところであり、本検討内容等について紹介する。





2階 ホワイエ/セミナールーム



No	タイトル	発表者
1	予防早期医療創成モデルとは	名古屋大学 予防早期医療創成センター
2	標準化リポジトリによる 医療情報統合プラットフォーム構築	名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター
3	子どもたちの運動スキルに関する 地域課題;IT/AI活用ニーズの現状	中京大・スポーツ科学部／学園経営戦略部 名古屋大・保体センター／予防早期医療創成センター 豊田市・企画政策部、(株)日本システムウエア
4	超音波画像による筋エコー強度は サルコペニアの指標となるか?	名古屋大・保体センター、中京大・国際教養学部 国立スポーツ科学センター、日体大・体育学部 名古屋大学・医学系研究科
5	「educe食育」の取り組み、 乳幼児期からの未病対策	株式会社ミールケア、日本educe食育総合研究所



No	タイトル	発表者
6	姿勢解析技術を活用した セルフコンディショニングサービス	株式会社quantum
7	衣服型ウェアラブルデバイスの紹介と 生体情報を利用した健康増進への 取り組み	東洋紡株式会社、ユニオンツール株式会社
8	医療、ヘルスケア分野における エッジコンピューティング	日本システムウエア株式会社 (NSW)
9	脳波計測による 認知症早期発見の試み	名古屋大学大学院 工学研究科 情報通信工学専攻 コンピュテーションナルインテリジェンス研究室
10	醸造微生物、麹菌のもつ食品機能: 腸内細菌叢改善と大腸炎緩和作用	名古屋大学大学院 生命農学研究科 分子生物工学研究室 名城大学大学院 農学研究科 応用微生物学研究室 石川県立大学 生物資源研 環境生物工学研究室
11	消化抵抗性経口投与に適した コレステロール吸収阻害ペプチド	名古屋大学大学院 工学研究科 生命分子工学専攻 生物化学工学研究室
12	神経シナプス異常の早期診断を目指した グルタミン酸受容体ケミカル可視化	名古屋大学大学院 工学研究科 生命分子工学専攻 化学遺伝学研究室、京都大学大学院 工学研究科 合成生物化学専攻 有機生物化学研究室
13	ラクオリア創薬産学協同研究センターを 通じた心不全の治療薬開発	ラクオリア創薬株式会社
14	IP-MALDI-MSによる 血液アミロイドβ分析	株式会社島津製作所
15	がん遺伝子を標的とした 非環状人工核酸導入型siRNAの開発	名古屋大学大学院 工学研究科 生命分子工学専攻 生命超分子化学研究室、名古屋大学大学院 医学研究科 腫瘍外科学研究室

座長 若井 建志 医学系研究科 予防医学 教授

時間	タイトル	内容
14:00 ～ 14:30	レビー小体病ハイリスク者の抽出と 臨床的特徴 名古屋大学大学院医学系研究科 神経内科学 服部 誠	レビー小体病(パーキンソン病およびレビー小体型認知症)では神経症状の発症10～20年前から便秘やレム期睡眠行動異常症(RBD)、嗅覚障害などのprodromal症状が生じる。高山および名古屋市の健診受診者に対して質問紙調査を実施したところ、50歳以上の健診受診者2,726名のうち155名(5.7%)が複数のprodromal症状を有し、さらにその33.3%でレビー小体病を示唆する画像異常が認められた。
14:30 ～ 15:00	名古屋大学TENGプロジェクト 名古屋大学大学院 医学系研究科 発育・加齢医学講座 地域在宅医療学・老年科学分野(老年内科) 未来社会創造機構 教授 葛谷 雅文	名古屋大学未来社会創造機構・抗老化グループは愛知県豊山町と連携し健康寿命延伸・社会参加寿命の延伸のため、全町民をターゲットとした 1) 放送メディアを活用したフレイル・認知機能低下予防プログラム、 2) 元気な高齢者が地域を支える循環型システムを目指した豊山町健康長寿大学の開設などの複合的なプログラム開発とその効果検証を実施しており、今回その内容について紹介をする。
15:00 ～ 15:30	保険者と共に考える 予防早期医療創成モデル 名古屋大学 予防早期医療創成センター 特任教授 吉田 安子	「予防」は単なる疾病予防からウェルネス、そして社会参加寿命の延伸を目指したハピネスの追求へとパラダイムシフトつつある。私たちは「個別化予防」の実現を目指し、豊田市等の職域や保険者、企業と協力して、IoTによる生活習慣データや、健診データ、体质データなど個人に紐付く健康情報を収集し、行動変容を促す介入実証を行っている。最近では家族単位のヘルスレコードの重要性について着目しており、その概要について報告する。
15:30 ～ 16:00	奥三河メディカルバレープロジェクト －包括未病対策地域に産学官で 展開する健康想像空間－ 名古屋大学 予防早期医療創成センター 教授 平田 仁	現在高齢化と人口減少が急速に深化し、国家存亡に関わる深刻な社会課題と捉えられ、国を挙げて対策を模索している。この状況は技術革新や経済発展の結果として生じた社会構造の変化であり、世界の全ての地域で遠からず発生する事態である。世界に先駆けてこの状況を体験している本邦は新時代への解を模索するイノベーターにとっては最高の研究環境とも映る。我々は愛知県で最も高齢化が深刻な奥三河地区を舞台に産学官が連携して健康・医療イノベーションを誘導する取り組みを始めた。プロジェクトの概要とこれまでの成果を紹介する。
小休止(5分)		

-6-



Innovative Research Center
for Preventive Medical Engineering

名大病院前（夏）

座長 本多 裕之 予防早期医療創成センター 教授

時間	タイトル	内容
14:00 ～ 14:30	姿勢解析技術を活用した セルフコンディショニングサービス 株式会社quantum Founder of POZ 金 学千(きむ はくちよん)	本サービス開発では、画面を見ながらインストラクターの動きにあわせてストレッチをするだけで自分の動きが分析・評価され、リアルタイムに正しいポーズへ導く、オフィス向けの新しいリフレッシュ体験をデザインした。広告会社の枠組みを超えて新規事業を連続的に生み出す組織「STARTUP STUDIO」による、LEAN STARTUPを駆使した用途開発事例を紹介する。
14:30 ～ 15:00	衣服型ウェアラブルデバイスの紹介と 生体情報を利用した健康増進への 取り組み ユニオンツール株式会社 中田 章夫	衣服型のウェアラブルデバイスを着用することにより、人の日常生活における生体信号の変化を長期間にわたってシームレスに計測することが可能になる。これを可能にする衣服設計とフィルム状導電素材、計測デバイスの特徴について解説し、心拍や呼吸などの計測事例を紹介する。また、得られた計測データの活用事例や現在進行している取り組みについて紹介する。
15:00 ～ 15:30	中赤外レーザーを用いた 非侵襲血糖値センサーの開発 ライトタッチテクノロジー株式会社 代表取締役社長 山川 考一	糖尿病患者は1日複数回、痛みを伴いながら採血によって血糖値を測定しなければならない。中赤外の波長領域は分子の指紋領域と呼ばれ、さまざまな血中物質の中で糖のみに選択的に光を吸収させることができる。このため中赤外レーザーを皮膚に照射するだけで採血することなく血糖値を測定でき、患者の負担を大幅に低減と共に、糖尿病予備群および健常者の健康意識を高め、糖尿病の予防にも役立つ。
15:30 ～ 16:00	ヒトの「歩く」を プロデュースする試みについて 株式会社FiNC Technologies ライフサイエンス部 身体運動学専門のライフサイエンティスト 千場 拓真(こしば たくま)	ヒトの歩容(=歩行の質)は個々によって異なり、個々を取り巻く身体的・環境的要因によるところが大きい。昨今、コモモーティブシンドロームに代表される「移動機能」の重要性が再認識されており、歩容の適切な評価が健康増進に寄与するものと考えられる。本セッションでは、歩容センシングインソール(日本電気株式会社開発)のご紹介から健康増進に向けた今後の展望とその可能性について述べる。
小休止(5分)		

-7-



名大病院（夏）



座長 吉田 安子 予防早期医療創成センター 特任教授

時間	タイトル	内容
16:05 ～ 16:35	健診標準フォーマットの普及の現状 日本医師会総合政策研究機構 客員研究員 窪寺 健	特定健診の開始以来、健診等データの流通経路の整備とデータベース構築はできた。医療業界、IT業界で使われている標準化とはなにか、健診という狭い業界で動き始めた健診データ標準化の趣旨と現状を情報共有させていただく。
16:35 ～ 17:05	医療健康情報の利活用の幅を広げる次世代医療基盤法 (財)医療情報システム開発センター (自治医科大学客員 教授) 理事長 山本 隆一	2017年に改正個人情報保護法が施行され、医療情報が要配慮情報に指定され、医療健康情報の個人情報保護が強化された。一方で公益を目指した医療健康情報の利活用の制限が強くなった。これを改善すべく次世代医療基盤法が制定・施行された。すべての問題に対応できたわけではないが、プライバシーと公益の高度なバランスを目指す法で、概略を説明するとともに実施状況を報告する。
17:05 ～ 17:35	患者が医療機関等を相互連携させる分散データ運用 東京大学 大学院情報理工学系研究科 ソーシャルICT研究センター 教授 橋田 浩一	医療機関等の間でパーソナルデータを共有する際にそのデータを集中管理するとリスクとコストが高まりデータ活用が難しくなるので、データを本人に集約し本人がデータ共有のハブになる分散管理が望ましい。パーソナルデータを本人がサービスの選定に用いるのが最も価値の高いデータ活用法であり、その収益を適宜分配することでデータ活用を促進できると考えられる。
17:35 ～ 18:05	共創によるヘルスケア・イノベーション創出への挑戦 Director, Head of Philips Co-Creation Center 赤坂 亮	フィリップスは、日本初となるCo-Creation Centerを昨年新設し、通信・自動車などの異業種、医療機関、自治体、大学とエコシステムを形成することでイノベーションを生み出し、一人ひとりの健康寿命の延伸や健康なコミュニティづくりといった新たな価値創造に挑戦しています。 本講演ではフィリップスのイノベーション創出の取り組みについてご紹介いたします。
小休止(5分)		
挨拶 佐宗 章弘 名古屋大学副総長・学術研究・産官連携推進本部長		

-8-

座長 秋間 広 総合保健体育科学センター 教授

時間	タイトル	内容
16:05 ～ 16:35	子供の体力・運動習慣と脳の発達～ 学力・高次認知機能の観点から～ 筑波大学 准教授 紙上 敬太 (かみじょう けいた)	「子供の体力や運動習慣が学力と関わっているのか？」を明らかにすることが、過去10年間の研究トレンドであった。しかしながら、この関係を認めていない研究もあり、未だに見解が一致していない。本発表では、学力と高次認知機能に焦点を当てた研究を紹介し、体力・運動習慣が本当に脳の発達に影響を与えるのかを議論したい。
16:35 ～ 17:05	「常に細くなければならない女性」 ～将来の虚弱 そして 次世代の健康障害への警鐘～ 愛知県立芸術大学美術学部 身体運動・健康科学研究室 教授 石垣 享	人類の肥満が進行している中で日本は、痩せている若年女性の出現率が2割を超える。このことは、世界的に非常に稀有な社会現象と捉えられている。日本人男性の肥満が増加している状況で女性のみに生じている痩せ現象は、女性自身の意思により生じている可能性が高い。そこで、ワークショップでは、細い身体が要求される新体操の事例を中心にして、女性の痩せの近縁に存在する問題を示していく。
17:05 ～ 17:35	小児メタボ・肥満とスクロース・フルクトースの新パラダイム 名古屋大学大学院 生命農学研究科 栄養生化学 准教授 小田 裕昭	世界中で肥満、メタボが大人に限らず子供でも増加している。子供の肥満は、深刻であり対策が急がれている。最近は特にスクロース（主にフルクトースの作用）の取り過ぎが最も大きな問題として取り上げられている。代謝に関する新知見によるパラダイムシフトとともに社会政策の転換期を迎えようとしている。フルクトースをめぐる最新知見を紹介する。
17:35 ～ 18:05	食べるものの・食べること・食べたを 感じ、育む教育 ～フードコンシャスネス教育 学習院女子大学 環境教育センター 所長 品川 明	食に対する五感を耕し、生きる力、考える力、コミュニケーションする力、文化や未来を創造する力を育成する。フードコンシャスネス教育とは、食を自分の持つ五感（感覚）と心で味わい、食のみえない部分や多くのつながりに気づくこと。食の知識や情報を提供するのではなく、食を通した体験と気づきから、知的好奇心を醸成するとともに自己の社会性や精神性を育むことを大切にしている。
小休止・第1会場へ移動		

-9-



チューリップの花壇

